

## ■ 広域交流を進めるみちづくり

山口県に住むどのくらいの人が、快適に交通結節点や中枢都市にアクセスできるか？

空港1時間圏人口カバー率	H16実績値	62%	[人口カバー率(%)=カバー圏の人口/山口県の人口] 交通結節点や近隣の中核都市まで一定時間内でアクセス可能な地域に住んでいる人の割合。
新幹線駅30分圏人口カバー率	H16実績値	70%	
中枢都市2時間圏人口カバー率	H16実績値	77%	
高速IC30分圏人口カバー率	H16実績値	90%	

### 平成16年度の主な事業

「分散型の都市構造」を持つ山口県では、広域的な交流・連携を強化する道路ネットワークの整備が重要な課題となっています。高速ICや新幹線駅、空港等へのアクセス性は、特に山陰地域や中山間地域において不足しています。このため、「山陰自動車道」の延伸や「地域高規格道路 小郡萩道路」など、陰陽を結ぶ道路ネットワークの整備を進めています。

#### □整備事例:国道191号 萩・三隅道路

自然災害による通行規制が発生しやすい国道191号を補完するとともに、広域交流の促進、地域の活性化に寄与することを目的に、整備を推進しています。

平成16年度は、飯井地区、明石地区の改良を促進し、三隅IC～明石IC区間での進捗率は、平成15年度の54%から平成16年度は70%に向上しました。

#### □整備事例:地域高規格道路 小郡萩道路

小郡町と萩市を結び、中国縦貫自動車道等と連結することにより高速道路ネットワークを形成することを目的に、地域高規格道路として整備を推進しています。

美東IC～絵堂IC区間での進捗率は、平成15年度の45%から平成16年度は56%に向上しました。



## ■ 地域の自活を支えるみちづくり

渋滞によって、どのくらいの損失があるのか？

### 渋滞損失金額

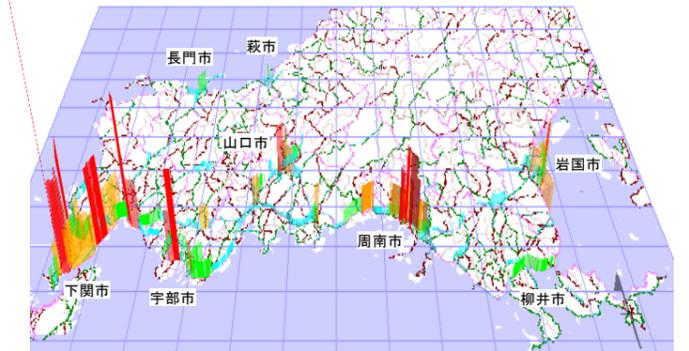
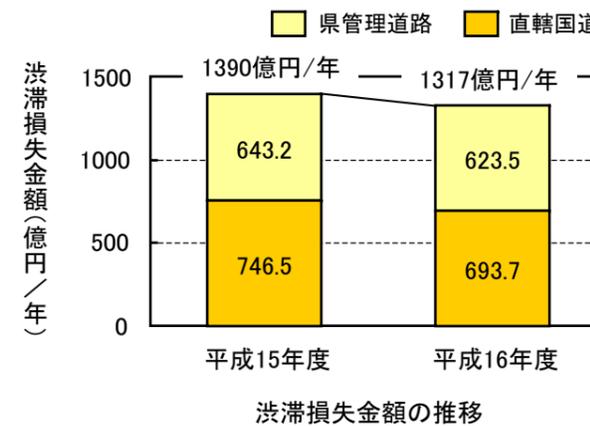
[渋滞損失時間(人・時間)=損失時間×交通量×1台あたりの平均乗車人数×時間価値]

渋滞のない場合の所要時間と実際の所要時間の差(損失時間)を費用換算したもので、渋滞の実態を数量的に表したものだ。

H16目標値	1389 億円/年
H16実績値	1317 億円/年 (達成)

### 平成16年度目標値の達成状況

平成16年度の「渋滞損失金額」の実績値は1,317億円/年で、目標であった1,389億円/年を達成しました。平成15年度の実績値(1,390億円/年)に対する削減額は73億円/年(5.3%)で、内訳は、直轄国道が53億円/年、県管理道路が20億円/年でした。



### 平成16年度の主な事業

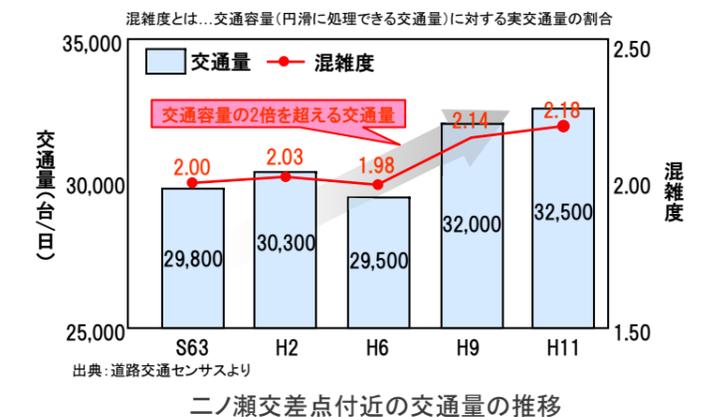
#### □国道2号花岡拡幅

##### (1)供用前の状況

国道2号下松市切山～山田の約2.4kmの区間は、2車線道路で3万台/日を超える交通量があり、朝夕のピーク時間帯に著しい渋滞が発生していました。このため、二ノ瀬交差点は、「山口県の第4次渋滞対策プログラム」における主要渋滞ポイントに指定されていました。



二ノ瀬交差点の状況(バイパス供用前)



二ノ瀬交差点付近の交通量の推移